

研究成果の紹介

兵庫県水稲オリジナル品種育成の取組み（中間報告）

当センターではJAグループと共同研究により水稲オリジナル品種の育成を進めている。2016年に交配した「キヌヒカリ」代替用の系統は、高温耐性や収量、品質に注目して選抜を進めている。今後は食味評価等により5系統まで選抜し、広域適応性を評価する。

内容

2016年から水稲オリジナル品種育成に取り組んでおり、2024～2030年にかけて「キヌヒカリ」「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」代替の高温耐性・良食味品種の品種登録出願を目標としている（図）。今回は品種開発の概要および先行する2016年交配「キヌヒカリ」代替系統の育成・選抜状況を報告する。

【交配】 2016年から毎年10組合せを交配。交配に使用する親品種は、高温耐性品種と良食味品種を中心に組合せを選択している。

【固定期間*（第2～4世代）】 品種開発を効率的に進めるため固定期間では、温室内で夏・冬の2作/年の栽培を実施している。

【個体選抜（第5世代）】 第5世代になると、おおそ形質は固定される。毎年10組合せで約1万個体を圃場に植付し、出穂期、草型、倒伏程度、穂の大きさや形状等により「個体選抜」を行う。収穫後に玄米品質によりさらに選抜を行い、最終的に約500個体を選ぶ。

【系統選抜（第6世代以降）】 第6世代から同一系統において複数の株を植え評価を行う。ここでは、収量性、病害抵抗性、食味のほか、「高温耐性検定温室」を用いた高温耐性評価により選抜を行う。

【2016年交配の育成状況】 現在（2021年12月）第7世代を迎え30系統まで絞り込みを行った。30系統は「キヌヒカリ」の熟期と比べて同程度で稈長が短く倒伏耐性に優れ、高温耐性に優れた（整粒率が高い）系統である（表）。

今後の方針

2016年交配の30系統について食味評価を行い5系統に絞り込む。2022年度からは県下各地で試験栽培を開始し、広域適応性を評価していく。また、2017年以降に交配した系統も同様に選抜を進めていく。

*固定期間：親と子が同じ形質を表すようになる（形質が固定される）ための期間。

篠木 佑（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）

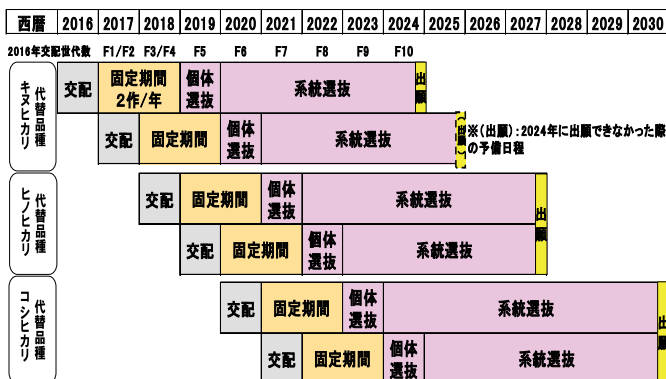


図 オリジナル品種育成のスケジュール

表 30 系統（2016 年交配）の形質概要

項目	キヌヒカリ (対照)	2016年交配 30系統
出穂期(月/日)	8/6	7/31～8/7
成熟日(月/日)	9/16	9/13～17
稈長(cm)	81.5	78.8 ± 4.9
整粒率(%)	46.5	71.4 ± 3.4

出穂期、成熟日、稈長は2021年の結果。整粒率は2020、2021年に野外で栽培したものの平均値。稈長、整粒率は30系統の平均値。±は標準偏差を示す。